

# ユーザーレポート

# User Report

— 0の証明 —

個人

## 兄を救ったアルコールインターロック。 生活の足『車』を取り上げずに飲酒運転を防ぐ！ 最善で唯一の解決策。

アルコール・インターロック装置を個人のクルマに装着されたご家族にお話を伺いました。

装着を依頼されたのは、飲酒運転をする62歳のお兄様に悩む弟さんです。同じように、家族や身近な人の飲酒問題に悩みを持つ方の参考になればと、導入に至るまでの経緯と葛藤を赤裸々に語っていただきました。

ご利用機器

### ALC-ZERO II



### 連続飲酒の始まりは・・・

62歳になる兄は独り身です。少し前まで母と同居をしていたのですが、母の認知症が進み施設に入ることになったので、そこから1人での生活が始まりました。温和で真面目な兄は、公務員をしていました。60歳で定年を迎えた後は雇用形態を変えて働き続けることもできたようなのですが、その選択はしませんでした。

他界した父が酒好きだったことから、子供の頃よりアルコールは身近な存在でした。兄も普段からよく飲んでいましたが、働いていたうちは自分で節制ができていました。ところが退職後、仕事という抑止がなくなったところに、母の施設入居が重なって、そのあたりから連続飲酒が始まってしまったようです。今思えば、急に1人になって寂しかったのでしょう。



### 兄からのSOS!

昨年11月初旬のことです。珍しく兄から電話がありました。「しばらく何も食べてない。動けないので来てほしい」との内容でした。私は他県に住んでいますが、普段、やり取りが少ない兄からのSOSであったため急いで駆けつけました。私が到着した時にはシラフであったものの、かなり衰弱している状態でした。聞けばお酒だけを2週間飲み続け、食べ物は一切取っていないため、栄養失調で動けなくなったとのこと。見渡せば家の中はお酒の空き缶で溢れています。すぐさま内科に連れて行き、事なきを得ましたが、ここからが長い治療の始まりとなります。

### 依存症治療へ踏み出すも・・・

兄のSOSから2週間後、様子を見に行くと状況はほとんど変わっていませんでした。私は市の保険課へ連絡をして、相談をしました。そこで初めて、兄は依存症であること、お酒を止めることが出来ない状況であることがはっきり解りました。紹介いただいた精神科へ連れて行くと、即入院の流れとなり、兄も素直に従いました。兄自身もお酒をやめられない自分をなんとかしたいという気持ちがあったのだと思います。これは昨年11月後半のことです。そこで兄は依存症治療を行い、自助グループにも入りました。

約1ヶ月の入院を経て、自宅に戻りました。その時、訪問看護の方に「どなたか家族の方で面倒を見ていただかないと、同じ事が繰り返されます」と助言をいただきました。しかし私にも生活があり兄をずっと見守っているわけにもいきません。頼れる親族もいない中、結果として再入院となりました。入院先にて依存症の薬を処方されましたが、その薬は効果がなく、お酒が減る事はありませんでした。その後、少し強い薬を試しましたが、今度は副作用が強すぎて使用を断念しました。依存症の治療はなかなかうまくいきません。



※ご提供いただいた実際の写真です

### 驚愕。お酒の買い置きがない理由

経済的には余裕のある方だと思います。しかし毎日なんの予定もない生活が、際限なくお酒を飲んでしまう理由だと考えます。私が兄のところへ行くと伝えれば、その時はシラフで迎えてくれるからです。顔を合わす時は、私の知っている穏やかな兄のままであり会話も問題なくできるのです。ただ現実問題として、家には空になった瓶や缶が散乱しています。写真にあるのは、約1週間分の飲酒量です。これ以外にも家の中のいたるところからワンカップの焼酎やビール、チューハイなどの空き缶が出てくるので、とにかくエンドレスで飲み続けていることがわかります。けれど、買い置きは見当たりません。どうやらケースで買うことはしておらず、その都度何本か購入しては飲んでいるようなのです。つまり常に酒気帯びで車に乗り、追加のお酒を買いに行くということです。寂しさで止まらない飲酒、それから飲酒運転、いずれも止めなければなりません。

## 日を追うごとにボロボロになっていく車

私は、兄が酒気帯びどころか酩酊状態で飲酒運転をしていることを知り愕然としました。初めて SOS の連絡を受けた時、兄の車両を見に行くと左後ろにぶつけた痕跡がありました。その2週間後には、もう1つキズが増えていました。気を付けて見るようになりわかったのですが、恐ろしいことに、兄の車は日を追うごとにボロボロになっていくのです。もっと恐ろしいことは、兄に自覚がないことでした。キズが増えた箇所の写真を撮って兄に見せると、心底驚いて慌てて車を確認しに行くのです。そして、どこにぶつけたのかわからない。またいつどこまで運転したのかさえ記憶にないと言うのです。もしかしたら当て逃げどころか、人を傷つけているかもしれない……。私は恐怖に駆られました。

精神科へ入院した後、1月頃でしょうか、車の鍵を取り上げました。兄は特に怒ることもなく、すんなり承諾しました。私はその当時、兄が飲酒運転の加害者になってしまう恐怖が強く、鍵を取り上げることでは安心を得ることができませんでした。兄自身も、鍵がないことで運転をしなくなる安堵を感じていたように思います。しかし田舎では車が無いと生活が成り立たないのも事実です。兄の不便を考えて、しばらくして鍵を返すことにしました。すると兄は「もう返してくれるの？早く返してくれたね」と言いました。兄はもしかしたら、このまま鍵を取り上げたままでいて欲しかったのかもしれないと感じました。



※写真はイメージです

## 救急隊員からの連絡！

今年4月のことです。夜8時、救急隊から連絡がありました。兄が家の外階段から転げ落ち、病院に運ばれたということです。兄は泥酔していて階段で転んだことを全く覚えていませんでした。大腿骨骨折で2ヵ月ほど入院をすることになった兄に、アルコールインターロックのことを話しました。そして「これ取り付けるよ!」と言うと、鍵を取り上げた時と同じ調子ですんなり納得し、東海電子へ取り付け依頼の連絡をすることになりました。

兄は根が真面目なので、入院中はお酒を断つことができます。私が心配していることも理解して、対策を提案すれば受け入れます。これだけしっかりとできるのに、家に戻り一人になるとうまくいきません。細々とでもいいので仕事を続けていれば、お酒に溺れることもなかったのかなと残念に思います。

## 生活に寄り添う唯一の解決策

兄の車のドリンクホルダーには、アルコールの缶がありました。飲酒運転をしていたのは明らかです。私はこれを見て体が震えました。もしも人を轢いてしまったら。私はもう兄と一緒に過ごすことができなくなります。そんな不安に襲われていた時、インターネットで色々調べている中で知ったのが、東海電子のアルコールインターロックです。兄を加害者にさせない手段をようやく見つけた思いがしました。兄から車を取り上げることも考えましたが、大腿骨の骨折でさらに生活が不便になったこともありますし、やはり現実的な解決策ではありません。「地方での生活に必要な車の運転」と「飲酒運転をしない」を両立できるインターロックシステムこそが、生活に寄り添う最善で唯一の解決策であると思い、導入を決断しました。



※ご提供いただいた実際の写真です

## インターロック設置に向け車の修理へ

ボロボロになってしまった車の修理は、兄が自分でディーラへ依頼をしました。直しに出す時にはかなり心配をしていました。もしかしたら当て逃げの届けが出ていて、警察に捕まるかも知れない、と考えたようです。どこを走って、どこにぶつけたのかさえ記憶にない飲酒運転をしているのですから当然です。けれど修理は問題なく終わり、兄も私もとにかくホッとしています。

## アルコールインターロックの安心感

インターロックの取り付けは、骨折の入院中に行いました。退院後に使用方法を説明したところ、兄はしっかりと聞いていました。東海電子のインターロックは精度が高いため、呼気に少しでもアルコールが含まれていればエンジンをかけることができません。兄もよく理解していたはずですが、実際に使用する段階で、呼気測定をしたらアルコールが検知され、エンジンがかからなかったことがあるのです。そんな時は誰に文句を言うわけでもなく、運転を諦めているようです。

# ユーザーレポート

# — 0の証明 —

# User Report

■ 個人

「飲酒運転ができない」アルコールインターロックに、感謝しかありません。私の中で、取り付け前と取り付け後では、気持ちが全く違います。今は離れていても安心していただけるのですから。兄も同じ安堵を得ているはずです。お酒を飲んで記憶がないまま運転してしまう自分が怖かったと思います。インターロック設置後は、車にキズがつくことはありません。飲酒運転をしていない証拠です。



## 依存症治療も同時進行

最初に診察を受けた内科でも減酒薬を処方されました。しかしごく弱いものであり「この薬を飲むとお酒が飲めなくなる」と説明されたそうですが、兄には全くして効果がなく、普段通りおいしくお酒が飲めると言っていました。

次に精神科での依存症治療は、もう少し強い薬を試してみようとのことで、まず検査をしました。副作用がどのくらい出るのかお酒を飲ませて検査をします。ところが兄はこの時の副作用が強かつらかったようで、依存症治療薬は断念することになりました。

現在、兄は週2回の訪問看護に助けられています。人の出入りがあることで、連続飲酒は無くなりました。ただ精神科の退院時に受けた助言「環境を整えなければ同じ事が繰り返される。誰か近くでしっかり見守る人を」については対策が取れておらず、訪問看護だけでは心許ないのも確かです。相談先や頼る人がない環境である中で「アルコールインターロックが見守ってくれている」という安心が私たちの救いです。

東海電子WEBサイト  
【アルコール・インターロック.com】  
<https://alcohol-interlock.com/>

アルコール・インターロック  
社会実装と個人装着を推進する

特設サイト

アルコール・インターロック.com  
～飲酒運転加害者をゼロに～

## アルコールに頼らない生活の模索

兄は定年してからすぐに、仕事に戻りたいと言っていました。しかしこれまでと同じ公務員に戻るには手続きや登録が面倒で、今に至っています。訪問看護の方が作業所などを紹介してくれましたが、流れ作業などは好まないとのことと断っています。何か予定があれば飲酒する事が少なくなるのだと思うのですが、兄の気持ちが向かない状況です。

時々兄と連絡が取れない事があります。たぶん飲酒していて電話に出られないのだと思います。移手段のひとつとして自転車を買わせてみたのですが、活用には至りませんでした。見守る家族からしてみれば、車よりは自転車の方が加害者になる可能性が低いかと思いましたが・・・。兄自身が怪我をする分には、仕方がないと思っています。

## アルコールインターロック普及に向けて

実際使ってみての正直な感想として、こんなに安心できる機器はないと思います。ディーラーオプションにしてもらえれば取り付けの人ももっと増えるのではないのでしょうか。必要な人が必死に探してようやくインターロックを知る、という手間もなくなりますし、それにディーラーオプションにすれば、車両に取り付ける際に、デザイン的にももっと綺麗に納まるかと思えます。私はアルコールインターロックで安心を得ることができました。東海電子にはアルコールインターロックを作ってくれてありがとうございます！と言いたいです。

### 取材ご協力

家族を守る方法の手段として、  
アルコール・インターロックを導入された  
熊本県の U さんご一家



東海電子公式YouTube 【導入事例】  
あるご家族のアルコールインターロック装着ものがたり【ALC-ZEROII】  
<https://www.youtube.com/watch?v=CcXm5jBgeTQ>

### 導入事例動画

【あるご家族のアルコールインターロック装着ものがたり】  
<https://www.youtube.com/watch?v=CcXm5jBgeTQ>

飲酒したら、エンジンがかからない。



アルコール・インターロック

ALC-ZEROII

導入事例